

いしづみ

良心の碑

聖書の言葉

イエスは言われた。「しかし今は、財布のある者は、それを持って行きなさい。袋も同じようにしなさい。剣のない者は、服を売ってそれを買いなさい。」(ルカによる福音書 22 章 36 節)

イエスは弟子たちに剣を用意するようにとっていますが、その意味は「これから厳しい時代が来るので覚悟しなさい」ということです。

新島先生は第 2 回目の外遊に出発する直前に神戸教会でこの聖句を用いて説教されました。(朗読: 片桐 陽)

7 月例会

日時 7 月 15 日(水) 2 時~4 時
篠塚陽子氏 『津田梅子英国短期留学に
関してのエピソード集』

■津田梅子と同志社

新島襄は友人の津田仙の娘が留学生で来たので会いに行った。その様子をハーディへの手紙に「かわいくて才知に富んでいる娘」と書いている。梅子は帰国後に伊藤博文の別荘で新島襄に再会している。

1882 年、山川捨松との帰国時に、ランマン氏は知人のデイヴィス夫妻が同志社に帰ると聞き、二人を託した。道中、日本語が話せるデイヴィス夫人から、日本に帰ってからの心構えを教わる。

■プリンマー大学留学

華族女学校の教師をしつつ、さらに高等教育を受けたいと、2 度目の留学を決めた。そこで「辞職願」を出したが、「願書」に変更され、在職のままの留学を認められた。

プリンマー大学では、生物学を専攻し「カエルの卵」の研究に没頭した。後にノーベル賞

を受賞するモーガン博士と「カエルの卵の定位」という共同論文を作成し、自然科学雑誌に掲載された。

留学の終わりころ、トマス学長、モーガン博士から大学に残って研究を続けるように強く説得されたが、固辞して帰国する。

■日本婦人米国奨学金

プリンマー大学留学中に梅子は、「日本婦人米国奨学金」を創立した。これは 8000 ドルの基金の利子で 4 年に一人の女子留学生を留学させる制度である。支援者のモリス夫人やトマス学長が中心になって基金を集めた。

25 名の女性がこの制度で留学している。最初の留学生は同志社女学校校長の松田道である。2 番目は恵泉女学園の創立者の河井道で、4 番目に津田塾大学初代学長の星野あいがいる。5 番目にウィリアム・ヴォーリスと結婚した一柳満喜子がいる。

■英国短期留学への動き

1898 年、アメリカのデンヴァーで開催された万国婦人連合会に派遣された。この時、日本にいた英国国教会宣教師夫人達は梅子を英国に招待しようと英国公使のアーネスト・サトウに働きかけた。津田仙にも面談して要請した。費用は大隈重信の判断で明治政府が負担した。皇后からの下賜金も出た。

■英国留学

英国に半年間短期留学。マリオン・ピカステス夫人の周到な計画で、女子教育者のネットワークを確立できた。ケンブリッジ大学のトレーニング・カレッジ(2 週間)。ここに安井てつも留学中。校長のエリザベス・ヒューズと有意義な



意見交換ができた。チェルトナム・レディース・カレッジ(11 日間)。ビール校長から教育への理想や学校の歴史を教わる。

オクスフォード大学セント・ヒルダズ・カレッジに 2 ヶ月間、聴講生として在籍した。

■英国で出会った人々

ヨーク大主教マクラガン師は将来や信仰の悩みを打ち明けた梅子を励ました。梅子は学校創立の意思を強く持った。

ナイチンゲールとの面談で、梅子は日本の女性の現状と将来を語った。ナイチンゲールから日本女性の新しい道への励ましをもらい、記念に花束をもらった。この花は押し花にして、現在も津田塾大学に保存されている。

門野重九郎は大倉組(大成建設)ロンドン支店長で、妻のりよ夫人は華族女学校の教え子である。門野重九郎は長く女子英学塾の理事長を務めた。

■帰国

いったん米国に戻り、ランマン夫人の介護をして帰国した。皇后陛下に帰国報告する。女子高等師範学校教授の後任となるウェストン女史と英国公使アーネスト・サトウを訪問し、帰国の挨拶をする

【編集後記】 篠塚陽子さんは、津田梅子の研究から津田仙、新島襄にたどりつき、現在ではもっとも研究熱心な会員のひとりです。

(文責: 津田道夫 写真: 江澤香)

9 月の予定

安中を訪ねる旅

日時: 9 月 26 日(土)~27 日(日)
集合: 26 日・JR 安中駅 12 時 35 分
昼食を済ませて集合してください。
宿泊: ホテル・ルートイン安中
旅行責任者: 片桐陽さん(090-1765-6619)

〈窓〉 先日、日本女子大学の「成瀬記念館」を見学する機会を得た。群馬新島研究会の企画に便乗させていただいたの訪問だった。日本女子大と新島襄、そして同志社とのつながりについて記念館の学芸員の是恒香琳(これつね・かりん)さんが詳しく説明してくれた。

成瀬仁蔵は大阪・浪花教会で受洗し、同志社と関連が深い大阪の梅花女学校(現・梅花女子大学)の教師を務めた

後に渡米してアンドーヴァー神学校やクラーク大学で学んだ。是恒さんによると、このころから新島と接点があったとみられる。新島は成瀬の按手札にも出席し、交流は新島が亡くなるまで続いた。成瀬は 1894 年に帰国していったん梅花女学校長に就任。日本女子大学校を設立したのは 1901 年だった。

記念館の書庫では是恒さんは、私たちのために特に、新島が成瀬に贈った聖書 3 冊を取り出

してくれた。聖書には新島の直筆のサインと「1886 年」の日付が残されており、大変感激した。また、草創期の日本女子大に関わった同志社卒業生のリストを作成してくれていた。そこには、成瀬と共に大学設立に邁進した麻生正蔵や、第 5 代校長を務めた大橋広、同志社女子部教頭から転じた松浦政泰など、数えきれないほどの名前が挙げられている。これほどまでに強いつながりがあったのかと驚くばかりで

あった。

同志社女子大の学長だった越智文雄はかつて、「新島先生の蒔いた女子教育の種は単に京都御所の北だけでなく、東京の目白にも花開いていることを思うのである」、「同志社精神が校祖の死後、京都の地を離れて、一部、早稲田の森に移ったのと幾分似ていることに驚くのである」(同志社時報)と記した。この言葉を改めてかみしめた訪問であった。(福岡 幸)